

## カナダ先住民の寄宿学校の歴史

### ——基礎的資料——

細川 道久

#### はじめに

今日のカナダが抱える大きな政治課題の1つが、先住民の処遇である。特に近年取り上げられているのが、寄宿学校(residential school)をめぐる問題である。先住民の子弟が家庭・コミュニティから引き離され、寄宿学校での生活を強いられた。そこでは「白人」の言語・文化が教えられ、「文明化」が進められた。身体的・精神的・性的虐待も少なくなく、自殺に追い込まれる者や精神的トラウマを抱える者が多数出た。寄宿学校制度は、先住民社会を解体させるとともに、先住民個人に大きな傷跡を残したのである。

2008年6月、スティーヴン・ハーパー(Stephen Harper)首相が謝罪を行ない、同年に設置されたインディアン寄宿学校真実和解委員会(Indian Residential Schools Truth and Reconciliation Commission of Canada) (TRC)<sup>1</sup>が、2015年に最終報告書を提出した。寄宿学校の実態が明るみになるにつれ、先住民社会に対する補償・和解が大きな政治課題となっている<sup>2</sup>。これは、多文化共生「先進国」カナダが直面する課題であると同時に、歴史認識にも関わる重要なテーマである<sup>3</sup>。先住民はもとより、様々な過去を持つ多様な移民からなるカナダ社会が、時には対立しあう様々な歴史／歴史認識をどのように接合し(あるいは、折り合いをつけ)、いかなる歴史を共有していくのだろうか。そのなかで寄宿学校はどのような位置づけがなされるのだろうか。

これまで筆者は、先住民に対しては、「白人」と「非白人」の関係史という観点から関心を寄せてはき

<sup>1</sup> 「インディアン寄宿学校真相究明・和解委員会」の方が適訳と思われるが、通例に従い、「インディアン寄宿学校真実和解委員会」とする。

<sup>2</sup> 寄宿学校の歴史、及び寄宿学校制度をめぐる課題については多くの研究がある。代表的なものを挙げておく。J.R. Miller, *Shingwauk's Vision: A History of Native Residential Schools*, Toronto: University of Toronto Press, 2000; do., *Residential Schools and Reconciliation: Canada Confronts Its History*, Toronto: University of Toronto Press, 2017. 日本では、謝罪・和解をめぐる研究が中心である。広瀬健一郎「スティーヴン・ハーパー首相による元インディアン寄宿学校生徒への謝罪プロセス」『カナダ研究年報』第30号、2010年9月、霜鳥慶邦「カナダ先住民の傷をめぐる政治と文学——Joseph Boyden、寄宿学校制度、カナダ真実和解委員会、2015年総選挙」『言語文化共同研究プロジェクト』(大阪大学大学院言語文化研究科) 2016年5月、など。なお、インディアン寄宿学校真実和解委員会の最終報告書の提言を受けての大学の歴史教育等の見直しについては、註15を参照。

<sup>3</sup> カナダ初代首相ジョン・A・マクドナルド(John A. Macdonald)は、寄宿学校設置に関わった政治指導者として批判されており、歴史認識をめぐる重要な争点の1つとなっている。Sean Carleton, “John A. Macdonald was the real architect of residential schools”, *Toronto Star*, July 9, 2017, <<https://www.thestar.com/opinion/commentary/2017/07/09/john-a-macdonald-was-the-real-architect-of-residential-schools.html>>, accessed on September 6, 2017; Dakshana Bascaramurty, “Debate escalates over legacy of John A. Macdonald in Ontario schools”, *Globe and Mail*, August 24, 2017 (updated on August 25, 2017), <<https://www.theglobeandmail.com/news/national/ontario-elementary-teachers-union-wants-john-a-macdonald-schools-renamed/article36076966/>>, accessed on September 6, 2017; Andrea Woo, “Victoria to remove statute of Sir John A. Macdonald”, *Globe and Mail*, August 8, 2018, <<https://www.theglobeandmail.com/canada/british-columbia/article-victoria-to-remove-statue-of-sir-john-a-macdonald/>>, accessed on January 30, 2019. *Canada's History* の2019年2・3月号は、John A. ——Celebrated. Scored: Our Polarizing First Prime Minister という特集を組んでいる。寄宿学校問題に限らず、マクドナルドの人種主義はしばしば指摘される。例えば、次を参照。Timothy J. Stanley, “John A. Macdonald's Aryan Canada: Aboriginal Genocide and Chinese Exclusion”, <<http://activehistory.ca/2015/01/john-a-macdonalds-aryan-canada-aboriginal-genocide-and-chinese-exclusion/>>, accessed on September 6, 2017.

たものの、寄宿学校についてはほとんど扱ってこなかった<sup>4</sup>。しかるに本問題は、多文化共生・人権・歴史認識など、様々な角度から考察しなければならない重要なテーマである<sup>5</sup>。こうした問題を考えるうえで、まずは基本的事実をおさえておくことが必要であろう。そもそも寄宿学校はいつ頃からどこに設置されたのか。運営したのはどういった組織だったのか。本稿では、かかる点につき、基礎的資料を提示したい。

## 1. 先住民寄宿学校関連年表（先住民全般に関する記述も一部含む）<sup>6</sup>

西暦	事 項
1763	国王宣言を發布。
1834	現オンタリオ州ブラントフォード(Brantford)に、モホーク・インスティテュート(Mohawk Institute)開校。インディアン寄宿学校和解協定(Indian Residential Schools Settlement Agreement(IRSSA))の対象となる最古の学校。
1850	連合カナダ植民地(United Province of Canada)議会、ロワーカナダ(Lower Canada)〔カナダ・イースト(Canada East)行政区〕のインディアンに関する法律を可決。初めてインディアン性(Indianness)を規定。
1851	現オンタリオ州マンシー(Muncey)に、マウント・エルギン校(Mount Elgin)開校。
1857	連合カナダ植民地で、漸進的文明化法(Gradual Civilization Act)制定。
1860	ボーヴァル校(Beauval school (イル・ア・ラ・クロス(Ile-à-la-Crosse)とも)が、現在のサスカチュワン州に開校。
1863	ブリティッシュ・コロンビア植民地ミッション(Mission)に、セント・メアリーズ校(St. Mary's school)開校。 セント・アルバート校(St. Albert school)が、現在のアルバータ州に開校。
1867	英領北アメリカ法(British North America Act)が発効。「インディアン、及びインディアン保留地」が連邦の管轄に。 セイクリッド・ハート校(Sacred Heart school)が、現在の北西準州に開校。
1868	ウィクウェミコン校(Wikwemikong school)が、オンタリオ州マニトウーリン・アイランド(Manitoulin Island)に開校。
1869	漸進的自由土地保有権付与法(Gradual Enfranchisement Act)制定。
1871	連邦政府とインディアンが第1条約、第2条約を締結。
1873	連邦政府とインディアンが第3条約を締結。
1874	連邦政府とインディアンが第4条約を締結。
1875	連邦政府とインディアンが第5条約を締結（1908年にも）。

<sup>4</sup> 細川道久『「白人」支配のカナダ史——移民・先住民・優生学』彩流社、2012年。同「多民族国家カナダの過去と現在——多文化共生への模索」『歴史地理教育』第89号、2019年9月、8-9頁。

<sup>5</sup> 人権・多文化共生や歴史認識に関しては、これまで筆者は、以下の訳書や論稿を発表した。ドミニク・クレマン『カナダ人権史——多文化共生社会はこうして築かれた』（細川道久訳）明石書店、2017年。細川道久「カナダにおける公的記憶と歴史家——新カナダ戦争博物館展示をめぐる論争を手がかりに」『地域政策科学研究』第6号、2009年2月。

<sup>6</sup> 作成にあたって以下の資料を参照した。A *Knock on the Door: The Essential History of Residential Schools from the Truth and Reconciliation Commission of Canada*, Winnipeg: University of Manitoba Press: National Centre for Truth and Reconciliation, University of Manitoba, 2016, pp. xvii-xx; 細川『「白人」支配のカナダ史』、第2部第2章。

1876	インディアン法(Indian Act)制定。 連邦政府とインディアンが第 6 条約を締結 (1886、1889 年にも)。
1877	連邦政府とインディアンが第 7 条約を締結。
1879	デイヴィン報告書(Davin Report)で、政府資金による教会運営の寄宿学校を平原部に設置することを勧告。
1883	議会が、北西準州に授産学校(industrial school)3 校の設置を承認。 バトルフォード授産学校(Battleford Industrial School)が、現在のサスカチュワン州に開校。
1884	インディアン向上法(Indian Advancement Act)を制定。
1885	選挙権法(Electoral Franchise Act)で、インディアン男性に連邦選挙権を付与 (きわめて限定的)。1898 年に撤回。
1886	パス・システム(pass system)導入。保留地の出入りを監視するために通行許可証(pass)を発行。
1888	バートル校(Birtle residential school)が開校。マニトバ初の寄宿学校。
1891	インディアン省付きの通訳ジャン・ルウルウ(Jean L'Heureux)、性的虐待容疑の取り調べを免れ、辞職が認められる。
1892	連邦政府枢密院令(order-in-council)により、授産学校への助成が削減。
1894	インディアン法が改正され、子供の教育に相応しくない親、あるいは、教育を受けさせたがらない親だとインディアン担当官(Indian agents)が判断した場合、子供を寄宿学校に送る権限を同担当官に認めた。学校から逃亡した子供を返さない親は、訴追の対象となった。
1899	インディアン担当相クリフォード・シフトン(Clifford Sifton)が、メイティの子弟が寄宿学校に入学するのを認める通達を出す。 連邦政府とインディアンが第 8 条約を締結。
1903	現在のアルバータ州サン・ポール・デ・メイティ(Saint-Paul-des-Métis)に、初のメイティのための寄宿学校が開校。
1905	サン・ポール・デ・メイティの寄宿学校が火災で焼失。生徒 1 人が死亡。 連邦政府とインディアンが第 9 条約を締結 (1929 年にも)。
1906	連邦政府とインディアンが第 10 条約を締結。
1907	インディアン担当医務担当部長(Indian Affairs Chief Medical Officer)ピーター・ブライス博士(Dr. Peter Bryce)が、1886 年以降に西部カナダの 15 校に入学した生徒の 24%が死亡と報告。
1910	インディアン省と教会組織が交渉し、寄宿学校への助成金増額と一定水準の教育を課すことに合意。
1914	モホーク・インスティテュートで「水療法(water diet)」と呼ばれる独房に娘を 3 日間監禁した校長を訴えた父親が勝訴。
1920	インディアン法が改正され、学齢期のインディアン子弟がデイ・スクール (通学学校) (day school)ないしは寄宿学校に入るのを義務化。 ユーコン準州ドーソン・シティ(Dawson City)にメイティのためのセント・ポールズ寄宿学校(St. Paul's hostel for Métis)が開校。
1921	連邦政府とインディアンが第 11 条約を締結。
1927	サスカチュワン州のボーヴァル校の火災で、生徒 19 人と職員 1 人が死亡。

1930	インディアン法が改正され、就学年齢が 15 歳から 16 歳に上げられる。
	マニトバ州のクロス・レイク校(Cross Lake school)の火災で、生徒 13 人と教師 1 人が死亡。
	ノヴァスコシア州にシュベナカディ校(Shubenacadie school)が開校。
1931	ケベック州フォール・ジョルジュ(Fort George)に、サン・ジョゼフ校(St. Joseph's school)が開校。
1933	インディアン法が改正され、カナダ連邦警察官全員を生徒補導員(truant officers)に任命。
1937	インディアン省が、寄宿学校へのメイティの子弟の入学をやめる政策を発令。
1938	アルバータ州でメイティ改善法(Metis Population Betterment Act)制定。
1939	カナダ最高裁判所(Supreme Court of Canada)が、カナダの法律の下では、イヌイットは「インディアン」とする裁定を下す。
	ブリティッシュ・コロンビア州警察が、脱走した男子生徒らがキューパー・アイランド校(Kuper Island school)で性的虐待にあった可能性があるとして結論づけ、生徒を学校に戻すことを拒否。現地インディアン担当官は、被疑者らが訴追を回避できるよう、州からの退去を勧告。
1944	インディアン省福祉・訓練監督官(Indian Affairs Superintendent of Welfare and Training)R・A・ホーイ(R. A. Hoey)が、議会委員会にて、寄宿学校を段階的に閉鎖すべきと発言。
1947	保健・福祉省の栄養管理部長(Director of the Nutrition Division of the Department of National Health and Welfare)L・B・ペット博士(Dr. L. B. Pett)が「どの学校でも適切な給食が行われていない」と報告。
1948	インディアン法に関する特別合同委員会が、「インディアンの子弟は、いつでも、どこでも、他の子弟と一緒に教育を受けさせるべき」とする勧告。
1951	インディアン法が改正され、インディアンの子弟を公立学校(public schools)に通えるよう教育委員会・州政府と協議する権限をインディアン省に認める。
1953	連邦政府が、寄宿学校の規則を全国的に統一する政策を導入。
1954	連邦政府が、政府所有の寄宿学校の教職員への責務を負うことに。
1955	連邦政府が、北西準州及びケベック州北部での寄宿学校・寄宿所(hostels)建設に対する広範な計画を承認。
1958	北西準州に初の大規模寄宿所を開設。イエローナイフ(Yellowknife)のアカイチョ・ホール(Akaitcho Hall)、フォート・マクファーソン(Fort McPherson)のフレミング・ホール(Fleming Hall)、フォート・スミス(Fort Smith)のブレイナット・ホール(Breynat Hall)の 3 つ。
	イヌヴィック(Inuvik)にグロリア・ホール(Grolier Hall)が開所。
	以後 20 年にわたって、寮監が生徒に対する性的虐待で有罪となるケースが毎年続く。
1960	寄宿学校助成方針に、カナダの公式食餌規則(Official Food Rules)に基づく食事支給(food allowances)が盛りこまれる。
1969	連邦政府が、教会との契約関係をやめ、寄宿学校を直接的に管理する。
	連邦政府が、北西準州・ユーコン準州の寄宿学校に対する責任を準州政府に移譲。
1970	アルバータ州ブルー・キルズ校(Blue Quills school)を父兄が 17 日間にわたり占拠。州政府が、先住民側の教育当局に管理を委ねることに同意。
	モホーク・インスティテュートが開校。寄宿学校は 67 校に。
1980	寄宿学校は 22 校。

1982	1982年憲法で、インディアン、イヌイット、メイティの権利を承認。
1985	インディアン法改正。C-31法案(Bill C-31)制定で、ジェンダー差別の解消へ。
1986	カナダ合同教会(United Church of Canada) <sup>7</sup> が、先住民に対する植民地化に関わったことに対して謝罪を表明。
1990	寄宿学校は13校。
	マニトバ諸部族長議会総代表(Grand Chief of the Assembly of Manitoba Chiefs)のフィル・フォンテイン(Phil Fontaine)が、フォート・アレクサンダー寄宿学校(Fort Alexander Residential School)での虐待について公言。
	オカ(Oka)の蜂起。モホーク族がケベック州警察機動隊・カナダ軍部隊と武力衝突。
1991	カリブ一部族評議会(Cariboo Tribal Council)が、寄宿学校に関する全国会議を組織。
	無原罪聖母マリア献身修道会(Missionary Oblates of Mary Immaculate)が、寄宿学校制度に関与していたことに対して、先住民に謝罪。
1993	カナダ・アングリカン教会(Anglican Church of Canada)が、寄宿学校制度に関与していたことに対して、先住民に謝罪。
1994	ファースト・ネーションズ議会(Assembly of First Nations)が、『沈黙を破って——ファースト・ネーションズ個人の語りから描く寄宿学校の衝撃と回復に関する解説(Breaking the Silence: An Interpretive Study of Residential School Impact and Healing as Illustrated by the Stories of First Nations Individuals)』を刊行。
	カナダ連邦警察が、ブリティッシュ・コロンビア州内の寄宿学校での身体的・性的虐待に対する苦情について過去に遡って調査するための先住民インディアン寄宿学校特別対策本部(Native Indian Residential School Task Force)を設置。
1995	プレズビテリアン教会(Presbyterian Church)が、寄宿学校制度に関与していたことに対して、先住民に謝罪。
1996	ヌーチャヌルス部族評議会(Nuu-chah-nulth Tribal Council)が、『インディアン寄宿学校——ヌーチャヌルスの経験(Indian Residential Schools: The Nuu-chah-nulth Experience)』を刊行。
	『王立先住民調査委員会報告書(Report of the Royal Commission on Aboriginal Peoples)』が、寄宿学校が数世代にわたって先住民に与えた影響について公開調査を行なうことを要請。
1998	モホーク・インスティテュートの元生徒が、損害賠償を求める集団訴訟を起こす(「クラウド訴訟(Cloud case)」)。
	サスカチュワン州のカベル校(Qu'Appelle school)が閉校。
	カナダ合同教会が、寄宿学校制度に関与していたことに対して、先住民に謝罪。
2000	すべての寄宿学校が閉校。
2005	ファースト・ネーションズ全国議会議長(Assembly of First Nations National Chief)フィル・フォンテインが、寄宿学校がもたらした負の遺産(legacy)について、カナダ政府に対し集団訴訟を行うと声明。
	インディアン寄宿学校和解協定(Indian Residential Schools Settlement Agreement(IRSSA))をめぐって交渉。旧生徒による集団訴訟に対する法廷外での和解として。

<sup>7</sup> 1925年、それまで別々に活動していたメソジスト派と会衆派(組合派)、それに約7割のプレズビテリアンが連合して設立。

2007	インディアン寄宿学校和解協定が発効。寄宿学校 140 校の旧生徒に給付金。同協定の対象外の旧生徒や学校あり。
2008	スティーヴン・ハーパー(Stephen Harper)首相が、寄宿学校制度に関して、ファースト・ネーションズ (インディアン)、イヌイット、メイティに対して謝罪。
	インディアン寄宿学校真実和解委員会(Indian Residential Schools Truth and Reconciliation Commission of Canada(TRC))が設置される。
2015	真実和解のための全国センター(National Centre for Truth and Reconciliation Commission)が、マニトバ州ウィニペグ(Winnipeg)に開館。
	ジャスティン・トルドー(Justin Trudeau)首相が、先住民・北方問題担当相に対し、インディアン寄宿学校真実和解委員会 (TRC) の行動要求(Calls to Action)を実施するよう指示。
	インディアン寄宿学校真実和解委員会 (TRC) が最終報告書を公表。
2016	先住民女性全国調査委員会(National Inquiry into Missing and Murdered Indigenous Women and Girls) (MMIWG) を設置。カナダ政府が、同委員会に約 1200 人の先住民女性・少女の安否等の究明を委嘱。
2019	先住民女性全国調査委員会 (MMIWG) が最終報告書を公表。

## 2. 先住民寄宿学校リスト<sup>8</sup>

所在地	名称	宗派 <sup>9</sup>
ブリティッシュ ユ・コロンビア州	Ahousaht	カナダ合同教会
	Alberni	カナダ合同教会
	Anahim Lake	非特定宗派
	Cariboo	ローマ・カトリック
	Christie	ローマ・カトリック
	Coqualeetza	カナダ合同教会
	Cranbrook	ローマ・カトリック
	Kamloops	ローマ・カトリック
	Kitimaat	カナダ合同教会
	Kuper Island	ローマ・カトリック
	Lejac	ローマ・カトリック
	Lower Post	ローマ・カトリック
	Port Simpson	アングリカン
	Sechelt	ローマ・カトリック
	St. George's	アングリカン
	St. Mary's	ローマ・カトリック
St. Michael's	アングリカン	
St. Paul's	ローマ・カトリック	

<sup>8</sup> *A Knock on the Door*, pp. xiii-xvi. 寄宿学校には、寄宿所(hostel)や授産学校(industrial school)も含まれる。

<sup>9</sup> ローマ・カトリック(Roman Catholic) : アングリカン (イギリス国教会 (聖公会)) (Anglican) : カナダ合同教会(United Church of Canada) : プレズビテリアン(Presbyterian) : メソジスト(Methodist) : バプテスト(Baptist) : メノー派(Mennonite) : 非特定宗派(non-denominational) : プレズビテリアン女性宣教協会(Women's Missionary Society of the Presbyterian)

アルバータ州	Assumption	ローマ・カトリック
	Blue Quills	ローマ・カトリック
	Crowfoot	ローマ・カトリック
	Desmarais	ローマ・カトリック
	Edmonton	カナダ合同教会
	Ermineskin	ローマ・カトリック
	Fort Vermillion	ローマ・カトリック
	Grouard	ローマ・カトリック
	Holy Angels	ローマ・カトリック
	Joussard	ローマ・カトリック
	Lac La Biche	ローマ・カトリック
	Lesser Slave Lake	アングリカン
	Morley	カナダ合同教会
	Old Sun	アングリカン
	Red Deer	カナダ合同教会
	Sacred Heart	ローマ・カトリック
	Sarcee	アングリカン
	St. Albert	ローマ・カトリック
	St. Augustine	ローマ・カトリック
	St. Cyprian's	アングリカン
	St. Joseph's	ローマ・カトリック
	St. Mary's	ローマ・カトリック
St. Paul's	アングリカン	
Sturgeon Lake	ローマ・カトリック	
Wabasca	アングリカン	
Whitefish Lake	アングリカン	
サスカチュワン州	Battleford	アングリカン
	Beauval	カナダ合同教会
	Cote	カナダ合同教会
	Crowstand	プレズビテリアン
	File Hills	プレズビテリアン(1889~1925) : カナダ合同教会(1925~49)
	Fort Pelly	ローマ・カトリック
	Gordon's	アングリカン
	Lac La Ronge	アングリカン
	Lebret	ローマ・カトリック
	Marieval	ローマ・カトリック
	Muscowequan	ローマ・カトリック
	Prince Albert	アングリカン
	Regina	プレズビテリアン

	Round Lake	プレズビテリアン(1884～1926) : カナダ合同教会(1926～50)
	St. Anthony's	ローマ・カトリック
	St. Barnabas	アングリカン
	St. Michael's	ローマ・カトリック
	St. Philip's	ローマ・カトリック
	Sturgeon Landing	ローマ・カトリック
	Thunderchild	ローマ・カトリック
マニトバ州	Assiniboia	ローマ・カトリック
	Birtle	プレズビテリアン
	Brandon	メソジスト(1895～1929) : カナダ合同教会(1929～70) : ローマ・カトリック(1970～72)
	Churchill	非特定宗派
	Cross Lake	ローマ・カトリック
	Dauphin	アングリカン
	Elkhorn	アングリカン
	Fort Alexander	ローマ・カトリック
	Guy	ローマ・カトリック
	MacKay	アングリカン
	Norway House	ローマ・カトリック
	Norway House	カナダ合同教会
	Pine Creek	ローマ・カトリック
	Portage la Prairie	プレズビテリアン(1891～1926) : カナダ合同教会(1926～69)
Sandy Bay	ローマ・カトリック	
オンタリオ州	Bishop Horden Hall	アングリカン
	Cecilia Jeffrey	プレズビテリアン(1902～25) : カナダ合同教会(1925～27) : プレズビテリアン女性宣教協会(1927～69)
	Chapleau	アングリカン
	Cristal Lake	メノー派
	Fort Frances	ローマ・カトリック
	Fort William	ローマ・カトリック
	McIntosh	ローマ・カトリック
	Mohawk Institute	アングリカン
	Mount Elgin	メソジスト/カナダ合同教会
	Pelican Lake	アングリカン
	Poplar Hill	メノー派
	Shingwauk	アングリカン
Spanish Boy's School	ローマ・カトリック	



	Spanish Girl's School	ローマ・カトリック
	St. Anne's	ローマ・カトリック
	St. Mary's	ローマ・カトリック
	Stirland Lake	メノー派
	Wawanosh	アングリカン
ケベック州	Amos	ローマ・カトリック
	Federal Hostel at George River	非特定宗派
	Federal Hostel at Great Whale River	非特定宗派
	Federal Hostel at Payne Bay	非特定宗派
	Federal Hostel at Port Harrison	非特定宗派
	Fort George	アングリカン
	Fort George	ローマ・カトリック
	Fort George Hostels	非特定宗派
	La Tuque	アングリカン
	Mistassini Hostels	非特定宗派
	Pointe Bleus	ローマ・カトリック
	Sept-Îles	ローマ・カトリック
ノヴァスコシア州	Shubenacadie	ローマ・カトリック
ヌナヴト準州	Chesterfield Inlet	ローマ・カトリック
	Coppermine	アングリカン
	Federal Hostel at Baker Lake	非特定宗派
	Federal Hostel at Belcher Islands	非特定宗派
	Federal Hostel at Broughton Island	非特定宗派
	Federal Hostel at Cambridge Bay	非特定宗派
	Federal Hostel at Cape Dorset	非特定宗派
	Federal Hostel at Eskimo Point	非特定宗派
	Federal Hostel at Igloolik	非特定宗派
	Federal Hostel at Lake Harbour	非特定宗派
	Federal Hostel at Pangnirtung	非特定宗派
	Federal Hostel at Pond Inlet	非特定宗派
	Frobisher Bay	非特定宗派
北西準州	Aklavik	アングリカン
	Aklavik	ローマ・カトリック
	Breynat Hall	ローマ・カトリック
	Federal Hostel at Fort Franklin	非特定宗派
	Fort McPherson	アングリカン
	Fort Providence	ローマ・カトリック
	Fort Resolution	ローマ・カトリック
	Fort Simpson	アングリカン

	Fort Simpson	ローマ・カトリック
	Grandin College	ローマ・カトリック
	Hay River	アングリカン
	Inuvik	アングリカン
	Inuvik	ローマ・カトリック
	Yellowknife	非特定宗派
ユーコン準州	Carcross	アングリカン
	Coudert Hall	ローマ・カトリック
	Shingle Point	アングリカン
	St. Paul's Hostel	アングリカン
	Whitehorse Baptist	バプテスト



写真1 Cross Lake School (マニトバ州) 1940年2月 MIKAN 4673899 Library and Archives Canada



写真2 Lac La Ronge School (サスカチュワン州) 1945年3月 MIKAN 3625039 Library and Archives Canada

### 3. 先住民寄宿学校数：州・準州別・宗派別<sup>10</sup>

	学 校 数	ロー マ・カ トリッ ク	アング リカン	カナダ 合同教 会	プレズ ビテリ アン	メソジ スト	バプテ スト	メノー 派	非特定 宗派
ブリティッシュ ・コロンビア 州	18	10	3	4	0	0	0	0	1
アルバータ州	26	16	7	3	0	0	0	0	0
サスカチュワ ン州	20	9	5	4	4	0	0	0	0
マニトバ州	15	8	3	3	2	1	0	0	1
オンタリオ州	18	7	6	2	2	1	0	3	0
ケベック州	12	4	2	0	0	0	0	0	6
ノヴァスコシ ア州	1	1	0	0	0	0	0	0	0
ヌナヴト準州	13	1	1	0	0	0	0	0	11
北西準州	14	7	5	0	0	0	0	0	2
ユーコン準州	5	1	3	0	0	0	1	0	0
合計	142	64	35	16	8	2	1	3	21

#### おわりに

以上、先住民の寄宿学校に関する事項を年表に示すとともに、寄宿学校のリスト、その州・準州別及び宗派別の分布を整理してみた。

それでは、今日のカナダ国民は、先住民や寄宿学校問題についてどのような認識を持っているのだろうか。2018年に行なわれた調査結果を示しておこう<sup>11</sup>。

<b>【1】先住民社会はどうあるべきだと思うか？</b>	
先住民が自分たちの問題に対して自主的に管理できるようにすべき	34%
他のカナダ人と同一の制度・規則の下で統治されるべき	66%
<b>【2】トルドー自由党による先住民問題の扱いをどう思うか？</b>	
関与が小さすぎる	19%
適切	26%
関与しすぎ	32%
わからない／何ともいえない	23%
<b>【3】寄宿学校問題についてどう思うか？</b>	
寄宿学校問題への謝罪に時間をかけすぎて、他の案件に進むべき	53%

<sup>10</sup> *A Knock on the Door*, pp. xiii-xvi.に基づき、筆者作成。寄宿学校には、寄宿所や授産学校も含まれる。プレズビテリアンには、プレズビテリアン女性宣教協会を含んでいる。なお、共同運営や運営母体が変更した場合も1校と計算しているため、宗派別数は、学校数とは一致しない。

<sup>11</sup> 2018年3月20～27日 Angus Reid Institute による調査。Maclean's, July 2018, pp. 29, 31に基づき、筆者作成。

寄宿学校の被害は続いており、無視できない	47%
<b>【4】 どうすれば先住民の暮らしは良くなると思うか？</b>	
文化や伝統の多くを失っても、もっと広いカナダ社会に統合する	53%
他のカナダと切り離されようとも、文化や伝統を強化する	47%
<b>【5】 先住民に対する基本的な見方は？</b>	
他のカナダ人が持っていない特別な地位を有すべきではない	53%
先祖がヨーロッパ人の到来・支配以前からいたのだから、本来的に特別な地位を有する	47%
<b>【6】 ファースト・ネーションズ（インディアン）の保留地で過ごしたことがあるか？</b>	
はい。かなりの時間を過ごしたことがある	4%
いくらかの時間は過ごした——少しは見たり、訪れたりした	26%
少しだけ——車で通りすぎた程度	32%
一度も訪れたことがない	38%
<b>【7】 先住民のカナダ人と接触したことはあるか？<sup>12</sup></b>	
ある——友人・個人的な関係として	17%
ある——近所／職場や学校にいる	23%
多少はある——公共の場所でみかける程度	33%
まったくない	35%
<b>【8】 先住民への質問：非先住民と接触することをどう思うか？</b>	
肯定的にみている	57%
否定的にみている	6%
肯定・否定の両方	28%
何ともいえない／わからない	9%

この調査に関して、『マクリーンズ(Maclean's)』誌が指摘するように、先住民に対する認識は、カナダ国民の間で二分しているといつてよい<sup>13</sup>。メディアによる日々の報道だけでなく、寄宿学校問題に接する機会が多いのにも関わらず<sup>14</sup>、相互理解が深まっているとはいえないのではないだろうか。

カナダでは1867年の連邦結成(Confederation)(カナダ自治領(Dominion of Canada)の成立)をカナダの「建

<sup>12</sup> 複数回答あり。

<sup>13</sup> Aaron Hutchins, “New solitudes: A comprehensive survey exposes a chasm between Canadians and their government on Indigenous issues”, *Maclean's*, July 2019, pp. 28-31.

<sup>14</sup> 例えば、ケベック州ガティノー(Gatineau)にあるカナダ歴史博物館(Canadian Museum of History)には、前身のカナダ文明博物館(Canadian Museum of Civilization)の時代から展示されている人類学資料に加えて、「カナダ歴史ホール(Canadian History Hall)」と呼ばれるカナダ史展示フロアに、先住民社会に関するコーナーが種々設けられている。そこには、先住民と「白人」の関係史(リエルの反乱などでのメイティ(Métis)とインディアン)のほか、寄宿学校のコーナーもある。同コーナーでは、寄宿学校での教育・生活の実態が写真や体験者の音声記録などをまじえて説明されているのに加え、行方不明の先住民女性・少女に関するニュース(本稿第1章の年表の「2016年」「2019年」を参照。先住民女性全国調査委員会(MMIWG)については、次を参照。<<https://www.mmiwg-ffada.ca/>>, accessed on September 10, 2019.)の紹介もある。

ちなみに、寄宿学校のコーナーの冒頭のパネルには次のような説明がある。「先住民の子弟を『文明化』するという明確な意図を持った広範な学校プログラムが、政府と種々の教会の助成を受け、20世紀の大半の時期を通してカナダじゅうで実施された。／いつの時代にも先住民には独自の教育制度があった。にもかかわらず、ときに彼らは、子弟に新しい技術を身に付けさせる教育を要求した。彼らが望んだのは、強制によるのではなく、同意に基づいた教育であった。実際に導入されたインディアン寄宿学校制度は、大いなる絶望と苦悩の種となり、今なおその影響は続いている。」(筆者による訪問調査。2018年8月、及び2019年6月)。

国」とみなし、それに関わったイギリス系とフランス系を「建国の二民族」と評しているが、先住民は、それよりもはるか以前にカナダの地に住み着いていた。その子孫たちが、旧来からの移民の子孫や新参の移民たちとどのように共存していくのか。多文化共生「先進国」カナダの課題である<sup>15</sup>。

付記 本稿は、日本学術振興会科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）（2017～20年度）、及び同（国際共同研究加速基金）国際共同研究強化（B）（2018～21年度）による研究成果の一部である。

---

<sup>15</sup> インディアン寄宿学校真実和解委員会（TRC）の最終報告書には、「行動要求(Calls to Action)」が記されている。cf. *A Knock on the Door*, pp. 163-188. 早急に実施に移すことが求められたこの行動指針は、法律、教育、記念碑・顕彰のあり方への提言など、多岐にわたっている。これを受け、関連機関において改善策が検討されているが、ここでは、大学における歴史教育等の見直しについて、ヴィクトリア大学(University of Victoria)の事例を紹介しておく。同大学歴史学部は、「カナダ史の脱植民地化(De-Colonizing Canadian History)」と題する授業科目を開設したのに加え、先住民研究、グローバル研究、宗教研究、人間・社会事業開発研究に携わる学内の学部・センター、及び、近隣に居住する先住民であるソングース(Songhees First Nation)の協力を得て、先住民の歴史の共有を図る種々の事業（植民地化の実態を知るために現地を訪問するバス・ツアー、先住民教員の受け入れ、保留地での会議の開催、先住民排斥を行なった政治家らの名前を冠した街路名の変更や彼らの銅像・記念碑の撤去の是非を問う公開フォーラムの開催、同大学のあるブリティッシュ・コロンビア州はもとより、アルバータ州とアメリカ合衆国モンタナ州を含めたトランス・ボーダーな先住民史の授業提供など）を展開している。さらに、ブリティッシュ・コロンビア植民地(Province of British Columbia)とヴァンクーバー島植民地(Province of Vancouver Island)〔前者は1846年創設、後者は1858年創設で、1866年に合併してブリティッシュ・コロンビア植民地となり、1871年にブリティッシュ・コロンビア州として連邦に加入した〕の各総督とイギリス本国の植民地省(Colonial Office)の間で交わした書簡等の調査・公開・共有にも取り組んでいる。"Experiments in Decolonizing and Indigenizing a University History Department", *Intersections* (Canadian Historical Association), vol. 2:3, 2019, pp. 14-15. 同大学のプログラムでは、'decolonizing' (脱植民地化) や 'indigenizing' (土着化/先住民化)〔先住民の要素を組み込み、先住民との共存を図る〕という語が使われているが、これは、過去のカナダが先住民社会を「国内植民地化」してきたことを意味している。